令和５年度　中学１年　シラバス

□教　科	地理
□授業時数	４時間／週
□教　材	『中学生の地理』(帝国書院)，『アドバンス中学地理資料』（帝国書院）『中学校社会科地図』(帝国書院)， 『Sirius21地理』(育伸社)，スタディサプリ（リクルート），『中学生の歴史』（帝国書院）
□学習到達目標	地理を学習することとは「地球全体の各地域の特色を様々な知識を結び付けてまとめる。地域を見る視点(規模)を調整しながら，現在どのような問題が起きて，どのような解決策があるかを考える。」ことである。そのため，言葉を暗記するのではなく，自分の力で言葉の内容や意味を説明できるようにしたり，知識を操作して各地域の特色について正しく理解したり出来るようになることが目標である。現代の国際化社会の中で世界の動きや流れに取り残されることなく，積極的に世界や日本の現状について考え，将来社会に出た時に主体的・中心的に活躍できる土台を築いていくことができるようにする。 ３学期から歴史を学習し，過去の人々の生き方や出来事を通して,未来をより良い社会にしていくためにはどうしたら良いか?考えていくことである。そのためには,登場人物や出来事を暗記することではなく「なぜそうなるのか?」を考え，１・２学期で学習した地理的要因とも関連付けて理解できるようにする。
□成績評価基準	年間５回の定期テストの平均点と平常点を合わせて100点満点で成績を算出する。平常点は授業態度を中心に，学期ごとに数回のノート提出，課題などの提出物，朝学習テスト（MAP)で評価する。

□授業計画

月	予定時数	単　元・項　目	内　　容	備　　考
4月	6	第１部世界と日本の地域構成 第１章　世界の姿 １　私たちの住む地球を眺めて ２　いろいろな国の国名と位置 ３　緯度と経度 ４　地球儀と世界地図の違い 第２章　日本の姿 １　世界の中での日本の位置	地理を学習する入口として「地図の見方」について学習する。方位の確認をした後に，大陸の配置や地域区分について学習する。その後，地図の見方について様々な題材を用いて練習し，授業中に地図を見ることに慣れる。 その後，地図の描き方について学習する。球体を平面に記載すると何らかの誤差が生じ，この誤差を踏まえて目的に応じて様々な地図の描き方が登場することを学ぶ。様々な地図の見方について学習し，今後他分野を含めた社会科全体を理解するだけでなく，生きていくうえで必要不可欠なことであるため正確に理解する。	○スタディサプリ 第1講 ①陸地と海洋,6大陸と3大洋 ②緯度と経度,地球儀と世界地図 ③地域区分，世界の国々
5月	11	第２章　日本の姿 ２　時差でとらえる日本の位置 ３　日本の領域と領土問題 ４　都道府県と県庁所在地	日本は周囲を海に囲まれた島国であり，急峻な山地や傾斜の大きな河川，河川や波の力によって形成された特徴的な地形が多くみられる。また，日本ほど四季が明瞭な国は世界でもほかに例がない。これらの日本の自然環境について学習することで，日本で発生しうる自然災害を知る。さらに，人々は災害に対してどのような対策を取っているのか，災害による被害を未然に防ぐためにはどのような対策を取ればいいのか，意見交換をおこないながら，考える力を身に着ける。	○スタディサプリ 第2講 ①日本の位置 ②時差 ③日本の領域 ④日本(領土をめぐる問題) 定期テスト①
		第３部　日本の様々な地域 第１章　身近な地域の調査 ・地形図の使い方 第３章　日本の諸地域 第１節　九州地方 １　九州地方の自然環境	地形図を用いて自分が住んでいる地域や自分の身の回りの環境について，様々なことを調べて発表し，人々は災害に対してどのような対策を取っているのか，災害による被害を未然に防ぐためにはどのような対策を取ればいいのか，意見交換をおこないながら，考える力を身に着ける。	○スタディサプリ 第10講 ①地域調査の進め方 ②地域調査のまとめ方 ③地形図
6月	16	第３章　日本の諸地域 第１節　九州地方 ２　火山と共にある九州の人々の生活 ３　自然を生かした九州地方の農業 ４　都市や産業の発展と自然環境 ５　南西諸島の自然と人々の生活や産業	日本は周囲を海に囲まれた島国であり，急峻な山地や傾斜の大きな河川，河川や波の力によって形成された特徴的な地形が多くみられる。また，日本ほど四季が明瞭な国は，世界でもほかに例がない。これらの日本の自然環境について学習することで，日本で発生しうる自然災害を学ぶ。同じ日本でも地域によって特色があったり，地形，気候，生活の様子は大きく異なることを理解する。 第１次産業は特に自然環境の影響を受け易く，自然環境と適合させながら，また，自然環境や社会条件のリスクを克服するために新たな技術を開発して農業を行っている。そのため，第１次産業の立地や特色には自然環境と関連した法則性が見えてくる。この法則性を明らかにして，まずは農業の種類について学習する。次に，各地域で行われている農業の特色や作物の種類や農業経営の方法を学習し，裏付けとして生産量などの統計をしながら農牧業の特色を地方ごとに理解する。	○スタディサプリ 第12講 ①九州地方（自然環境） ②九州地方（火山との歴史,生活） ③九州地方（農業） ④九州地方（工業,公害） ⑤九州地方（南西諸島の生活と自然） 第13講 ①中国・四国地方（自然環境） ②中国・四国地方（生活,課題） ③中国・四国地方（交通） ④中国・四国地方（農業,水産業） ⑤中国・四国地方（工業） 定期テスト②
		第２節　中国・四国地方 １　中国・四国地方の自然環境 ２　交通網の整備と人々の生活の変化 ３　瀬戸内海の海運と工業の発展 ４　交通網を活かして発展する農業 ５　人々を呼び寄せる地域の取り組み		
7月	0			

令和５年度　中学１年　シラバス

□授業計画	月	予定時数	単　元・項　目	内　　容	備　　考
	9月	12	第３節　近畿地方 1　近畿地方の自然環境 2　琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏 3　阪神工業地帯と環境問題にの取り組み 4　古都京都・奈良と歴史的景観の保全 5　環境に配慮した林業と漁業	家屋が集合した場所を集落と呼ぶ。集落は村落と都市に分かれてそれぞれ別々の人間活動が行われている。これらは形成された当時の自然環境や産業・社会システムなどが人間活動に影響を与えて形成されているため，村落や都市の種類や特徴を時代背景を考えながら学習する。次に現代社会における都市の様子や都市構造について学習し，現代社会のシステムや人間の諸活動について考察する。 農業では，低迷する食料自給率について触れ，低下の原因となった日本の農業制度の変遷や他国との関係について考える。工業では，工業を発展させていく一方で，貿易摩擦の問題や，多国籍企業の増加による産業の空洞化について考える。 また，産業の発達や住環境の整備によって様々な開発がおこなわれていくなかで，深刻な環境問題が発生していることに触れ，産業の発達と環境保護のバランスについて考える。	錬成テスト① ○スタディサプリ 第14講 ①近畿地方（自然環境） ②近畿地方（古都の歴史） ③近畿地方（都市） ④近畿地方（農林水産業） ⑤近畿地方（工業） ⑥近畿地方（琵琶湖の環境保全）
			第４節　中部地方 1　中部地方の自然環境 2　中京工業地帯の発展と名古屋大都市圏 3　東海で発達するさまざまな産業 4　内陸にある中央高地の産業の移り変わり 5　雪を生かした北陸の産業		
	10月	11			○スタディサプリ 15講 ①中部地方（自然環境） ②中部地方（都市・交通・世界遺産・生活） ③中部地方（農業・水産業） ④中部地方（工業） 定期テスト③
			第５節　関東地方 1　関東地方の自然環境 2　多くの人々が集まる首都、東京 3　東京大都市圏の過密問題とその対策 4　人口の集中と第３次産業の発達 5　臨海部から内陸部へ移りゆく工場		
	11月	13	第６節　東北地方 1　東北地方の自然環境		○スタディサプリ 16講～18講
			第６節　東北地方 2　伝統行事と生活・文化の変化 3　稲作と畑作に対する人々の工夫や努力 4　果樹栽培と水産業における人々の工夫や努力 5　工業の発展と人々の生活の変化		
	12月	1	第７節　北海道地方 1　北海道地方の自然環境 2　雪と共にある北海道の人々の生活 3　厳しい自然環境を克服してきた稲作 4　自然の恵みを生かす畑作や酪農、漁業 5　北国の自然を生かした観光業		定期テスト④
	1月	11	第１章　古代国家の成立と東アジア 第１節　人類の登場から文明の発生へ 1　人類がたどった進化 2　世界各地で生まれる文明 3　東アジアの文明の広がり 4　ギリシャとローマの政治と文明 5　仏教・キリスト教・イスラム教の誕生	歴史は過去の事象を暗記するのではなく，どういった背景で事象が生じて，それによってどんな影響が出たかを理解させる必要があることを理解する。その際，１・２学期で扱った地理を歴史にも活かし，地理的要因を踏まえながら理解する。	錬成テスト② ○スタディサプリ 第１章１節 ①人類の出現，石器時代 ②古代文明のおこり
	2月	10	第２節　東アジアの中の倭（日本） 1　縄文から弥生への変化 2　ムラがまとまりクニへ 3　鉄から見えるヤマト王権 第３節　中国にならった国家づくり 1　ヤマト王権と仏教伝来 2　律令国家を目指して	縄文時代から弥生時代までは国内の文献史料が少ないため，出土品や他国の史料を用いて当時の生活や文化・風習を理解する。 弥生時代には海外との交易や技術の発達によって貧富の差が生じ，やがて近畿地方を中心に大王を頂点とするヤマト王権が誕生する。この時代から天皇を中心とする政治が始まっていく歴史上重要な点だということを理解する。 大陸から仏教が伝来したことによって国内でも崇仏論争が起こり，蘇我氏や聖徳太子が中心に立って，仏教を取り入れた政治が進められていく。この時代の寺院は世界遺産などにも登録されているため，現代にも数多くの史跡が残っていることを理解する。	○スタディサプリ 第１章２節 ①旧石器時代と縄文時代 ②弥生文化と邪馬台国 ③ヤマト(大和)政権 第１章３節 ①聖徳太子の政治 ②飛鳥文化 ③律令国家への歩み 定期テスト⑤
	3月	0			